

KSKP**THRESHOLD**

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.33

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



神戸ダルク5周年フォーラム開催決定

コロナが猛威を振るう中、政府からの緊急事態宣言が出る気配はありません。これだけ長く続くと誰も予想できなかったことから、経済も回らない状況が目の前に迫っているのでしょうか。これまでは、強制的に自粛させられていましたが、この状況では、自主的に自分たちで自分たちを守っていかなければいけない意識が重要になってきているとも言えるでしょう。ダルクの回復のプログラムも同じで、やらされているのと、自分でやっているのでは雲泥の差があります。私も最初は前者でした。どうせダメだから。というのが私たちの頭の中にはありました。それを変えてくれたのは、自分の力ではなく、自分以外の力、すなわち嫌でも一緒にいた周りの仲間たちでした。このコロナ禍の影響でもそうですが、世の中が不幸になっていくと、流行ってくるのは薬物です。

そんな状況下で、今年の12月11日(日)に新長田駅前の「ビフレホール」にて神戸ダルク5周年フォーラムを開催いたします。神戸ダルクの取り組みや、タコスの提供、自主作成ドキュメント放映、基調講演として、茨城ダルク代表の岩井喜代仁氏を招いています。私たちがどの道を歩き、どの道へ歩いていくのかを、皆様の見守りの中で築いていきたいと思っていますので、手作りフォーラムですが、皆様ぜひご参加ください。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

ひょうごダルク 西宮ファミリーカウンセリングオフィス

〒663-8177 兵庫県西宮市甲子園七番町 9-18 H2O 甲子園 303 TEL 078-600-9525

共同生活援助(グループホーム)リカバリーホーム TEL078-647-7744(神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&3 TEL078-764-6988(神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス&お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援B型(10月より)事業所 ぱくやど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町 96 Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

茨城ダルク30周年フォーラムに参加して

代表理事 梅田靖規

昔、あるコラムで「苦しい時、困った時は故郷を、故郷での日々を思い出したら良い。故郷はいつも貴方の味方、応援者だ」という言葉が書かれていたのを私はよく思い出します。

私のにとっての故郷は、当然生まれ育った、両親の住む地元の愛知岡崎です。先日自分が開けているオンラインのミーティングに参加している仲間であ知の方がいて、「今日は岡崎の花火」と言っていた時に、私は日々の生活に追われ、故郷のことをだんだんと忘れていってしまっているなと思いました。15年前は、ダルクにつながることで一番引っ掛かっていたのは、大好きな友人たちがいる地元を離れることでした。もう、その時点で地元には薬物依存の私に関わる人は皆無でしたが。

そんな思いで、地元を離れ、茨城ダルクに入所したのは2007年の7月でした。はっきり言って、ダルクに繋がらなかったら、「茨城県」という土地に行くことは、僕の人生にはなかったと思います。

繋がった初日、早朝6時半に起こされ、到着した時には誰もいないように思えるほど静かだったハウスから、人が30人くらい飛び出してきて、朝の支度をしています。薬物を買に行き時以外、外出することがなかった生活を半年以上続けていた私は、はっきり言ってあの光景は、全員がビデオの2倍速で動いているように見え、目が回ってしまい病院に搬送されました。病院では、問診票に記入することすらできなかった私を片手で抱えながら、僕に聞き取りをしながら問診票を代筆してくれた仲間も、見るからにヤク中の強面でしたが「もう大丈夫や、安心しいや、安心しいや」とずっと支えてくれていたのを思い出します。それが私の茨城ダルクの第1日目の出来事です。

あれから15年が過ぎました。私は回復したのでしょうか？ 成長したのでしょうか？ 薬物は止まっています。家族もできました。大切な仲間も自分を慕ってくれる仲間もたくさんいます。でも、私は一つ思うことがあります。自分が何者でもなく、茨城ダルクで「今日一日」を馬鹿みたいに一生懸命、アホなことを話しながら過ごした日々の僕の方が笑っていたかもしれないなと思ひます。幸いにも、日本全国では「どうにもならない奴が送られる最後の場所・茨城ダルク」と当時から思われていましたが、私にとってはそうではありませんでした。背負っているものを全部下ろすには、僕にはあの場所が必要でした。何度も脱走しました。何度も泣きながら帰ってきました。そしてしばらくすると、「ジュンヤ」という男と出会いました。なんなんでしょうね。最初から僕を非常に買ってくれて、いつも一緒にいました。昼間はふざけたことばかりでしたが、夜はパチンコに行き、その帰りには飯屋で「最近あいつはどうだ？」「あいつ頑張ってるから助けてやれよ」「あいつは多分もう少しで潰れるだろうからちゃんと見ててやれよ」などなどという、行きつけの牛丼屋での会話をいつも思い出します。楽しかったですよ。それから、紆余曲折し自分の道を歩くことに挑戦して、気がついたら神戸ダルクの代表になっていました。

数ヶ月前に、フォーラムの案内と同時に「茨城ダルク卒業の施設長」という内容での登壇の依頼文が届きました。正直、その日一日、テンションが上がっておかしくなりそうでした。私は勝手に、茨城ダルク出身という看板を下ろされている気持ちでその部分では孤独に頑張っていたので、本当に嬉しかったです。自分で言うのもなんですが、私は茨城ダルクを誰よりも愛して感謝している人間だと心の中で思っていたのもあります。ここ2年くらい、フォーラムはどこでも行われていないのもあり、ダルクのメンバーほぼ全員で参加しました。運転手さん、本当に片道10時間お疲れ様でした。会場では、僕がスタッフをしていた頃の仲間たちが立派になっていたり、先輩たちに会ったり、今思うと、茨城ダルクは僕らの「人生の学校」のようなものでした。仲間と夢を語り、帰ってきた仲間を励ましたり、人生で必要なものだけを学んだ気がします。会場でも話しましたが、私は今でも困った時は「ジュンヤ君だったら、こんな時どうするかな？」ってことを絶対に思い出します。神戸ダルクのルーツはルールも含めて、全てここから学びました。私にとって、新しい人生の故郷は、岡崎ではなく、茨城ダルクです。困った時は茨城を思い出します。私にどんな噂話や陰口があろうとも、ここでの仲間は味方で応援者です。30周年本当におめでとうございます。



体験談

メイ

「主文。懲役 2 年。執行猶予 4 年。」

これが今回、私が受けた刑でした。今回で覚醒剤取締法違反で逮捕されるのは 4 度目です。

一度目は 28 歳の時、所持で懲役 2 年、執行猶予 4 年。

二度目は、7 年後 35 歳、使用で 1 年 6 月の実刑。

三度目は二度目の刑の満期日から 1 年後の 38 歳、

自宅に家宅捜査が入り、使用済注射器と空パケを押収されましたが、その場をかわし後日に出頭し、起訴保留。

そして、今回、二度目の満期日から数えて 7 年後、今年の 4 月、覚醒剤使用の罪で逮捕されました。

私は、18 歳で覚醒剤を覚え、何度も使用しては辞めての繰り返しでした。その 26 年間の長い間、家族、友人、同僚との約束を何度も破り続け、裏切り続けてきました。

そんな中、去年の 5 月、長年、苦勞や親不孝を掛けてきた母親が末期の肝硬変で他界しました。医者から半年の余命宣告をされましたが、1 ヶ月もたらず息を引き取りました。コロナ禍でもあった為、母親の看病や最後のわがままさえ、聞いてやることも出来ませんでした。

告別式を終え、役所等の手続きが一段落した頃から、母を亡くした悲しさ、自分の親不孝さ、おろかさ加減に自分を責め、苦しみ始めました。普通の者なら、そこで改心し、覚醒剤とは決別しているでしょう。だが、私は、その苦しみから逃れるには覚醒剤だと思った瞬間から私の脳は、それに支配されていきました。私に注意を払う人は、もういません。自分では歯止めが効かない様になりました。それからの数ヶ月、毎日何度も使用を繰り返し、自分でも脳がおかしくなっていく様に感じ、もう、こんな人生は嫌だと感じ始め、自分で人生を終わらせようと感じていました。その時、以前、役所の洗面所の端に置いてあった名刺程の大きさの一枚の紙をカバンに入れたことを思い出しました。その紙には姫路ダルクの電話が書いてあり、私は、そこに電話を掛けてみました。電話を対応してくれた方は、親切に相談に乗ってくれ、アドバイスを頂き、一旦は、改心しようとしたのですが、前向きには、なれず、もう死んで終わらせようと、今まで使った事のない量の覚醒剤を身体に入れました。

入れている途中から、周りの音が聞こえなくなり、指先から身体に掛けて段々と硬直していき、バーンとシャッターの様な扉が閉まった様な感覚があり、その瞬間から、倒れている自分を天井の方から眺めている感覚でした。その場所から自分の今までの人生を何度も見られました。最後は覚醒剤で死んでいく…。その情景が、まるで「業」や「地獄」と呼ばれる物の様に感じ、「辛い」と思った時に目が覚め、身体中、激痛を感じ「死にたくない」と思い救急に助けを求め、助けてもらいました。

その後、私は逮捕される事となり、今回の刑を受ける事となりました。今回、逮捕された事で、家の契約は解除され、車も処分、母から託された愛犬も、どこかに連れていかれ、他にもたくさんの物や人が自分の周りに離れていってしまいました。

「だから、あれだけ言うてきたやろ。やっと解ったか！！」と、母が言ってくれた様に思いました。そんな中、今回の、まさかの「執行猶予」やはり、そうだと確信し、その足で神戸ダルクの扉をたたきました。まさに、その時が自分の人生、第二章のスタートです。オカン、「ありがとう!!。」



群馬ダルクのワークショップ ポンド

7月25日のワークで群馬ダルクのショーンさんとブーさんが神戸ダルクに来てくれました。一日のワークで午前中に「アディクションの症状」について、午後からは「リラプスの症状」について教えて頂きました。実はその日僕はあまり調子が良くなく、仲間から心が乖離して苦しんでいました。そのおかげでと言いますか、今回の勉強はむしろ他人事ではなく自分のことが言われているような気がしました。ハイヤーパワーの働きですね。

ワークが終わり、スピーカーのショーンさんに話しに行きました。「僕は最近、周りの仲間が信頼出来なくなりました」と相談したら、ショーンさんは「それは病気が仕掛けた罠だ」と教えてくれました。その言葉で頭が一回転して全てのものの見方が180度変わりました。そこで自分はリラプスの症状の一つで「被害者になっている」ことに気がきました。その日の夜は考え事してて ほぼ眠れませんでした。不思議に朝になって少し気持ちが前向きになりました。

ワークの内容をお伝えします。まず午前中の「アディクションの症状」については一般的に皆さんが良く知っている症状「嘘」「正当化」「うつ」「裏切り」もそうですが、あるアメリカの施設で研究した内容で、いわゆる意外な症状が紹介されました。例えば「忘れ事が多い」「身だしなみが悪いこと」「言葉扱いが悪い」「レスペクトを要する」ことなど、そのような症状は一般的に薬物依存症とは関係がないように思われますが、それがこの依存症の病気の症状だと説明されています。

「忘れ事が多い」ということに関しては僕は日常に困っています。具体的には、施設の仲間の食費を集めさせて頂いていますが、凄く単純な作業ですが、誰か払ったか払っていないかを良く忘れています。頭の中でいつも混乱で忙しいのです。お金を集めながらも、違う仕事の事を考えていたり、その仲間の態度や言葉使いで気に取られたりして、最後にいつも、計算が合わなくて、記入忘れが多くあります。修正に時間がかかります。

最初は年のせいだと思った時もありましたが、自分の心の状態が良い日に簡単に出来てしまう作業なので、やっぱり病気の症状だなあとつくづく思いました。

「身だしなみが悪い」ということも自分の変化の一つです。これは英語で「Self respect」が大切だということです。ちゃんと歯を磨いたり、人に不快な服装せず、丁寧な髪型をする事です。薬物を使っていたころは本当に身だしなみが悪かったのですが今は少し改善されています。回復の中で外見も変わるものだと思います。

午後からは「リラプスの症状」についてののですが「疲労」「焦り」「理屈っぽい」そして、前半に書きました「被害者になる」などがありました。これも僕にとって、心当たりある症状ばかりでした。

全体的に言えば、今回の群馬ダルクで僕は自分の内面と向き合う時間となり、良かったと思います。群馬ダルクのショーンさんとブーさんに大感謝です。

再挑戦 タク

こんにちは、依存症のタクです。今回、私は2年のクリーンタイムがあるのに酒を飲んでしまいました。理由は、色々ありましたが、もうどうにでもなれと思って酒に逃げてしまいました。

ダルクでの生活も投げやりになり、何をやっても面白くなく、もう俺の人生はこんなもんかと投げやりになっていました。そんな時、1つの希望が見つかりました。プログラムでやっているタコス作り。前から料理が好きだった私はタコスを作る事で、また1からやり直そうと希望がもてるようになりました。今はまだ、試作品ですが、タコスを皆さんに食べてもらうまで、希望と勇気が持てる様になりました。これからが私の再挑戦です。そう思うことで元気がでます。早く皆さんに提供できるタコスを完成させて、社会復帰したいです。みなさんも神戸に来た時は沖縄タコスを食べにきて下さい。お待ちしております。



体験談 ブン

「前のレンタカーの運転手、左側に寄せて停まってください。」東京から神戸に来て半年、神戸で知り合った知人に誘われたバーベキューに向かっていった私の荷物には大麻、そして体にはフェニルメチルアミノプロパン…いわゆる覚醒剤が入っていました。やっとか…と正直ほっとした事が昨日の様に思い出されます。

10代からシンナーや大麻、コカイン等様々な薬物に手を出しましたが、リーマンショックの頃に職と家を失い多量の眠剤で何度も自殺未遂を行い、色々な民間施設を出入り禁止になっていた頃に渋谷のダルクに繋がり、依存症(アディクション)が病気であると知り、そして私は、立派な薬物依存症患者(アディクト)でした。私は現在 38 歳で、在日韓国人です。5歳の時に日本にきました。父は当時、様々な事業を日本で行っており、私はそんな父が誇りです。14歳の時に病気で亡くなり、育ての母も19歳で亡くなった私には、明確な将来のビジョンがあり、裕福な家庭を築いている筈でした。営業職で役職も与えて頂き順調でしたが、その後、日本の生活保護制度に甘えている自分が許せませんでした。

約2年、渋谷のダルクでプログラムに取り組みましたが、自分のアディクションの本質を理解していなかった私は施設を飛び出しました。処方薬も、何ならタバコも辞めていたので、すっかり治ったと思っていたのです。同じ頃に、韓国の異父の妹から5歳で生き別れになっていた母が私を探している、とフェイスブックにメッセージが届き、半年程帰国し韓国でも出来る仕事は何か…と考え、日本に帰ってから大好きなラーメンを作れる様になれば、と思い就職しました。

私はまだアディクトでした。1日13時間、週6勤務の激務を言い訳に、気が付いたら店のトイレで注射器を腕に射していました。約2年の間、働く為に使っていた筈が、使う為に働く様になっていた私は、死ぬ為に使う様になっていたと思います。

しかし、先に逝った父、育ててくれた母、可愛がってくれた次兄はそんな薬は許してくれず、当時一緒に使っていた恋人と別れた私は、ポケットに残りのバケを入れ、職務質問を受けようと夜の横浜繁華街を練り歩きました。そのまま朝を迎えた私は、横浜のダルクの前で倒れていました。そして、神奈川の病院に入院し、先ず ADHD(注意欠陥多動性障害)という発達障害、双極性障害、不眠症、そして薬物依存症と診断されました。

ただ私はまた治った、何なら処方もタバコもやめれた経験もあったので約半年の入院が終わった後、横浜ダルクを飛び出しました。

そして配達や飲食業で勤務していましたがコロナにより失業し、給付金や手当と時間のあった私は、また覚醒剤を身体に入れていました。何かに生き急いでいた私は、その時その時の何かを理由にして直ぐに気分が変えられる物、事に手を出していたのです。足を洗うことは出来ても、染めてしまった手はそのまんまで、あの時のトイレでの一発はまだ頭の中に残っています。

今回私は、懲役1年8ヶ月執行猶予4年(保護観察付)の処分を言い渡されました。最初で最後のチャンスであり、私にとっては3度目の正直です。

私はこの神戸ダルクでゆっくり自分と向き合い、どの位の期間になるかは分かりませんが、せめて今までみたいに飛び出す、逃げ出す事はしない様にしたいです。

あっ…禁煙は4年で終わり、今は電子タバコが辞められません…。長文失礼しました。



賀川記念館 天国屋カフェでのタコス作り

スタッフ ユウ

7月某日、今年度の助成金事業の一つとして、賀川記念館さんとのコラボ企画がスタートしました。中堅世代の触法障がい者と市民のつながりを築くモデルプロジェクト、と題して地域の方々に沖縄タコスを提供させていただく企画です。本番はまだなのですが、手始めに天国屋カフェにてタコス作りをしました。こちらでは自助グループのバースデーミーティングでキッチンを使わせて頂いているので、ある程度は勝手知ったるなんちゃら～でしたが、賀川記念館の職員さんが初めに丁寧にキッチン用品の場所など教えて下さり、スムーズに調理に取りかかることができました。ソーシャルキッチンでの販売を終了してからずいぶんたっていたので、タコス作りに一度も関わったことのないメンバーたちと四苦八苦しながらのスタートです。買い物リストで忘れていたものも多く、バタバタでしたが、なんとか予行演習1日目を無事終えることができました。



後日、タコミートの味の改善点などを話し合い、本格的な販売に向けて沖縄タコスの試作と研究が始まりました。タコス生地は今まで市販のトルティーヤを揚げたものを使っていたのですが、粉の配分や粉の種類を変えたものを何十種も作り、生地だけを試食したり、タコスにして生地と具材との相性を見たりして決めていきました。まるで一流シェフかソムリエにでもなったかのように、目利き味利きして作りあげていく工程は、大変でしたがワクワクして楽しかったです。

そうしてつい先日、タコスとラスポテと梅ドリンクのセットを賀川記念館の職員さん向けに練習もかねてブレ販売させてもらいました。これが本当に好評で、みなさんとても気に入ってくださったようでした。たくさん素敵な感想を寄せて頂き、仲間のモチベーションも上がったことだと思います。もちろん、しっかり見直していくための意見も頂いたので、改善が必要な部分も見えてきて、そういった意味でもとても有意義なイベントの時間となりました。

わたしたち依存症者は変化に弱く、新しいものを好まない傾向があります。それは回復の過程の中で少しずつ変わっていくのですが、今回のプロジェクトを通して、新しいことを始める不安がわくわくに変わる瞬間を、ぜひ仲間みんな味わってみたいなあと思っています。

最後になりましたが、このプロジェクトの趣旨に賛同し、ご支援して下さったファイザー株式会社さま、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

ぐっさん納骨式 ヒロ

僕は2019年3月から神戸ダルクに入寮し自分の回復について日常を通じて学ばせて貰っている薬物依存症のヒロといいます。今回頂いたテーマがぐっさん納骨式。改めて生きる事、死ぬ事命について考える機会を与えてもらいました。そう思うのです。

納骨式の時は僕も気持ちがだいぶ整理されていましたが納棺式、葬儀の時までは心が追いついてなかったように思います。と言うのも体調を崩すまで年齢を感じさせないぐっさんだったのに体調を崩しだして天に召されるまで本当に早かったのだ...

納棺式で僕はぐっさんと暫くぶりに対面しました。棺の中にいるぐっさんの身体に直接触れその事実をこの目で見てその時やっと受け入れ向き合った？心がやっとその事に追いついた？そんな感じでした。その事を受け入れた瞬間その時の感覚や思いは後々振り替えると子供の頃両親が召された時と似た感覚であの頃の記憶が甦り涙が出そうになり堪えたのを覚えています。子供の頃は素直に涙も流せたのに今では堪える事を覚え我慢する僕がいます。そして6月25日納骨式。

舞子墓園の賀川記念館納骨堂にぐっさんの遺骨が納められました。社会運動家である賀川豊彦先生のお骨の隣にぐっさんのお骨を代表が優しく並べておいてくれました。

「わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。」

このみ言葉を聞いた時凄く救われました。只母の元に戻るだけ。そう思い考え感じ信じる事が出来たので…。ありがとうぐっさん！感謝です。



活動報告

6月

NAの12の概念勉強会参加
ぐっさん納骨式
大阪大学訪問
和歌山ダルク訪問&メッセージ

7月

ソフトボール&あるこう会開催
賀川記念館ファイザープロジェクト会議
播磨社会復帰促進センターメッセージ(2回)
西宮アディクション問題を考える会参加
長田区みんなの連絡会参加
高砂市教育委員会講演
神戸国際医療交流財団会議
NAWSC座談会参加
ファーマーズフリマ(ボーアイ)参加
神戸ダルク6周年祭開催
家島高等学校講演
茨城ダルクフォーラム参加
公認心理師試験(2名)
龍野高等学校講演
群馬ダルクプログラム参加
王子公園プール
宮崎ダルクグループホーム開所式参加
トラウマインフォームドケア学習会開催
野菜路地販売開始

8月

賀川記念館タコス販売研修
鳥取ログハウス修繕
布引BBQ
京セラドーム野球観戦
WSC座談会参加
十津川村キャンプ2DAYS
加古川学園メッセージ

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
姫路無料家族相談 毎月第1火曜日
尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日
垂水病院すまーぶ参加 毎週金曜日
保護観察所すまーぶ 毎月第4金曜日
ヨーガプログラム 毎月1回



近況報告・活動予定

近況では、神戸ダルク家族会の会場が新しい場所に変わったのと、SPEAKEASYの店舗前で「野菜の無人路地先販売」を開始したことです。これは、みんなのアイデアを出し合って、「田舎の方だと、賽銭箱にお金を入れるシステムで野菜販売あるよね。あれ都会でやってみない？」と言うことで始まりました。最近の神戸ダルクはみんなで意見を出し合って決めることが多いです。そしたら、賽銭箱にいつも数枚のお金が入っているんですね。
ある日、「一昨日買ったプチトマトが、スーパーで買うより甘くて美味しかったので、もう入らないのですか？」と言う近所のおばちゃんから問い合わせがあったらしい。
こう言うの、本当に嬉しいですね。
地域と繋がるって、こういうことなんだと、長田の街の中心で愛を叫びました。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホールド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県のある依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々の文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

関 明子様 神戸メンタルサービス合資会社様 佐藤 喜三子様 千葉菜の花家族会 富井 建夫様 金山 悦子様
兵庫県立家島高等学校生徒の皆様 田中 明子様 橋本 美和様 小林 るみ子様

ご献品

一般社団法人日本コウカ療法学会事務所様 播磨社会復帰促進センター様 山崎 圭様 生田 茂美様
びわこ家族会 金川様 瀬山 将之様 鈴木 秀三様

(令和4年6月9日～令和4年8月15日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。不思議なもので、お米のストックがあると、本当に安心します。生活習慣病を気にしながらも、回復初期は食べて栄養をつけて体力的に回復するところから始まります。コロナ。まだまだ予断は全く許さず、少し行動範囲も広がったものの、自粛生活は続いています。ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。今非常に助かるのは、食材や日用品です。コロナの影響で外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シャ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ



編集後記

みなさんは、このスレッシュヨルドの色を毎回違う色に変えているのは、見てわかっていると思いますが、表紙のタイトルの文字も毎回違うフォントにしているのを気がついていませんか？これは特に意味はないのですが、ヤングマガジンという雑誌の「食べれません」という4コマ漫画があったのを覚えている人もいると思いますが、あの4コマ漫画のタイトルも毎回違うフォントだったのを思い出して真似しています。くだらない4コマ漫画なのですが、毎回楽しみにしていました。そんな思いが込められています。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.33

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田達哉

印刷 プリントバック

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 3000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者支助刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階